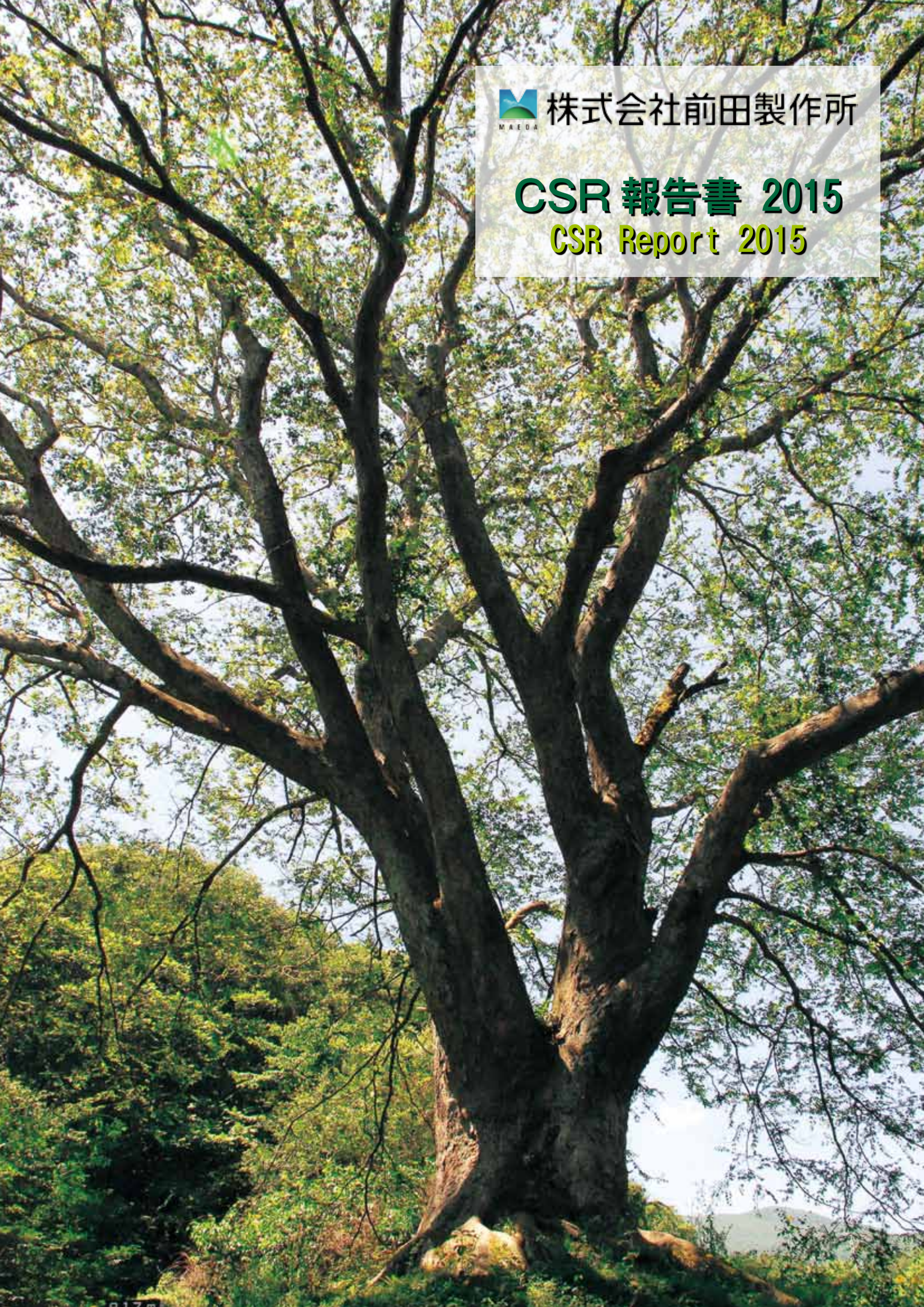
株式会社前田製作所

CSR 報告書 2015

CSR Report 2015



もくじ

コーポレートメッセージ…… 2
トップメッセージ…… 4
地域社会への貢献…… 6
自社ブランドでの貢献
　産機事業部編…… 8
　機鉄事業部編…… 10
　新規事業部編…… 12
コマツブランドでの貢献…… 15
従業員への貢献
　従業員への取組み…… 18
　職場環境と安全衛生…… 20
グループ会社の社会貢献
　㈱ネオックス…… 22
　㈱フォードマエダ…… 23
　㈱サンネットワークマエダ…… 24
CSR・コンプライアンス …… 26
環境への貢献
　環境経営…… 28
　環境データ・環境会計…… 30
　環境教育・啓発…… 36
　地球がステークホルダー…… 37

私たちは社会的な課題についてどのように貢献するのか。

私たちは、1962年の創立から今日まで、ものづくりの精神から社会基盤整備のお手伝いを行っています。現在、社会はさまざまな問題をかかえていますが、社会貢献活動を「社会への投資」ととらえ、自らが取り組むべき課題の解決に努め、「技術のマエダ」創りを実践することにより、安全、安心なサービスを提供し続け、豊かな社会の構築に貢献してまいります。

私たちは、社会の一員として経営資源を有効に活用して、社会貢献活動を積極的に推進します。

○私たちは、地域社会の文化的、経済的発展に寄与するために地域社会に密着した社会貢献活動に努めます。

○社会貢献活動を実施するにあたり、相互に資源やノウハウ、情報を補完するため、私たちは、NPO／NGOや地域社会のボランティア団体などのパートナーとの連携に努めます。

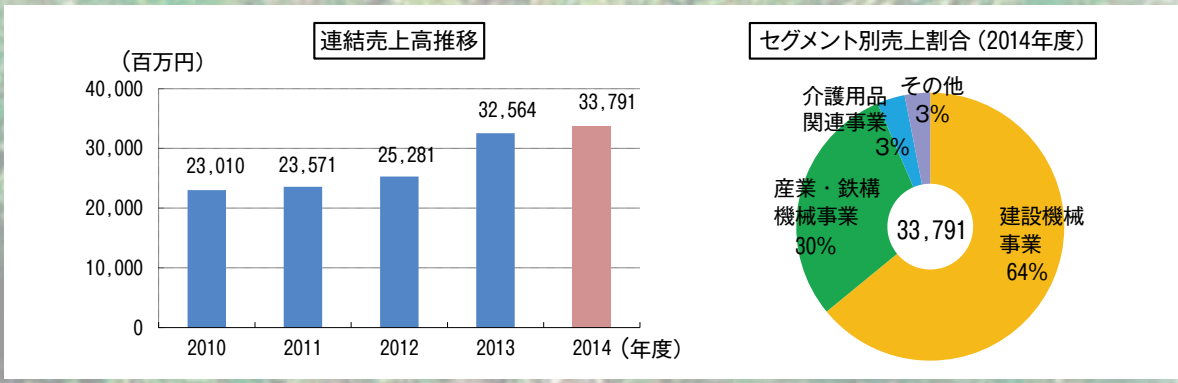
○私たちは、役員・社員のボランティア活動への参加を支援します。

本報告書について

●Ｗｅｂ上　http://www.maesei.co.jp
●対象期間　2014年４月１日から2015年３月31日までの活動を対象としています。
●対象範囲　前田製作所及び関連会社すべてを含みます。
●参考としたガイドライン　GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第４版」
ISO26000（社会的責任に関する手引き）
環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」

企業情報

会　社　名	株式会社　前田製作所 MAEDA SEISAKUSHO CO., LTD.
設　　立	1962年11月
本社所在地	長野県長野市篠ノ井御幣川1095
代　表　者	代表取締役社長　塩入　正章
資　本　金	31億6,000万円
従業員数	536名
関連会社	株式会社　ネオックス（油圧シリンダ等の油圧機器の製造） 株式会社　フォードマエダ（フォードジャパンリミテッド特約販売店） 株式会社　サンネットワークマエダ（介護用品レンタル及び販売事業）



主な事業内容

建設機械事業

▶建機商品
▶建機サービス
▶建機レンタル

建設機械販売・サービス事業エリア
コマツ甲信（長野県、山梨県全県）
コマツ名古屋（愛知県岡崎市以西、三重県津市以北）
建設機械レンタル事業エリア
レンタル21（長野県、山梨県、愛知県、三重県）

産業・鉄構機械等事業

▶かにクレーン【ミニクローラクレーン】
▶クローラクレーン【テレスコピック式クレーン】
▶カーゴクレーン・NEOX【トラック架装用クレーン】
▶運ん太郎【運搬台車】
▶まきえもん【凍結防止剤散布装置】
▶アーティキュレート式ダンプトラック・MDT【坑内用ダンプトラック】
▶土木機器、工場設備、特装車両、水門・橋梁、各種加工【受注製品】

新規事業

▶車いす・歩行車タイヤ洗浄機クルット
▶らくらく回転リフター
【介護関連商品】

トップメッセージ

人にやさしく豊かな未来を創造する

社会貢献活動

自然の猛威は時として私たち人間ではどうすることもできないことが発生しております。2011年の東日本大震災、その翌日に発生した長野県北部地震、2014年には南木曽土石流災害、広島土砂災害、御嶽山噴火、白馬村神城断層地震と立て続けに災害が発生しており、その間前田製作所本社所在地の長野県内だけをみても、３件の大きな災害が発生しています。

これらの災害に対して当社は、建設機械の販売・サービス・レンタルで培った技術により一刻も早い回復を願い協力してまいりました。

前田製作所は社会から信頼される企業を目指して、地域への貢献をはじめ、あらゆる貢献に社員一人ひとりが社会の一市民として、経営資源を有効に活用し、社会貢献活動を積極的に推進しています。

変革を軌道に乗せる年

2014年度は消費税の増税や建設機械における四次排ガス規制前の駆け込み需要の反動減により当初厳しい経営環境を想定しましたが、公共投資の増加、円安による影響を追い風に社員が自分の目標に向かって、それぞれ精一杯活動した結果、売上高、利益とも計画に対し大幅に達成することができました。2015年度は中期三カ年経営計画で掲げた「変革と成長への挑戦」の最終年度にあたり、「変革を軌道に乗せる年」と位置付けています。しかし、依然として国内情勢は景気の回復基調が鈍く円安による原材料の高止まり、四次排ガス規制による需要の落ち込み等、弊社を取り巻く市場環境は決して楽観できる状況とはいえません。

社員一人ひとりが掲げた計画を着実に実施していくことで、企業を成長させ、延いてはステークホルダーの皆さまから信頼される企業になれると信じ役員・社員一丸となって活動していきます。

マエダの CSR

前田製作所では、社是「誠実・意欲・技術」の精神に基づいた CSR 活動を推進しています。

社　是

技意誠
術欲実

企業の活力ある発展と社会への貢献を達成するため、「社是」の実践を通して、広く社会から信頼される存在であり続けます

❶ ステークホルダーの皆様に「誠実」さをもって接します
❷ 真に豊かな社会の創造を目指して常に「意欲」を持ってチャレンジします
❸ 優れた「技術」と質の高いサービスを提供します

企業行動憲章

私たちは、関係法令の遵守はもちろんのこと、以下の10箇条を誠実に実行することにより、良き企業市民としての責任を果たします

❶ お客様の満足
❷ 製品安全と品質・技術の追求
❸ コミュニケーションと情報開示
❹ 公正な競争
❺ 安全で快適な職場の創出
❻ 環境への配慮
❼ 社会貢献活動
❽ 国際ルールの遵守
❾ 企業倫理の徹底
❿ 社会の秩序と安全の重視

弊社の社是は簡潔に表現されているため社員全員が社是の精神を同じベクトルで実践することができるよう、より詳細に定めた「企業行動憲章」や「環境綱領」、「品質方針」、「安全衛生方針」を補完指針として制定しています。また、これらの指針について社員全員に理念を共有してもらうため、各階層、職場単位に教育を行っています。

日々移り変わる社会情勢に柔軟に対応できるよう社内のコミュニケーションを円滑にし、風通しの良い清廉潔白な企業風土の醸成に努めています。

今回の報告書のテーマは、企業行動憲章の一項目である「社会貢献活動」です。事業活動やCSR活動への取組みについて、皆さまのご意見、ご要望、ご叱責をお寄せいただければ幸いです。

前田製作所は持続可能な社会実現に向けてステークホルダーの皆さまといっしょに、今後とも歩んでいく所存ですので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長　塩入正章

環境綱領

製品の開発・製造や販売・レンタル事業を通じて地球環境保全に貢献する企業となるべく以下の項目に取組みます

❶ 事業活動全般について環境マネジメントシステムによる継続的改善を推進する

❷ 環境関連の法規、規制、業界その他の基準を順守する

❸ CO_2排出量の削減及び使用資源・使用エネルギーの削減に努める

❹ 環境に有益な影響を与える事業活動を推進する

❺ 新規事業、新商品・製品開発の過程において、人と環境の調和を最優先する

❻ CSR報告書などを通じて企業を取り巻くステークホルダーなど広く社会に公表し、相互理解を深める

品質方針

「品質至上」を基本理念に顧客が安心と信頼のもとに満足感をもって使用することができる安全と品質を提供する

❶ 魅力ある製品造りに徹して、お客さまの期待に応え、満足を得ることを基本とする

❷ 関連する法規、業界基準を遵守し、設計・製造・販売・サービスの質の向上を図る

❸ 顧客要求事項への適合と品質マネージメントシステムの継続的改善により有効性を確保する

❹ 品質目標を定めて定期的な見直しにより、常に最高の安全と品質に挑戦する

❺ 社員全員がそれぞれの役割を認識し、品質目標の達成に努める

安全衛生方針

「安全は、会社の良心である」を安全行動の基本理念とし、安全と健康を最優先とする企業文化とするため以下の方針に基づき活動します

❶ 安全三原則の遵守

「安全三原則」を一人ひとりが身につけ、労働災害、交通事故、心身の不調の無い完全無災害を達成させます

①整理整頓の徹底

②点検整備の徹底

③作業手順に則た作業

❷ 災害防止対策

安全衛生に関する法令や社内規定類を遵守し、安全を阻害する危険要因を予測し、作業に即応した災害防止対策を実行します

地域社会への貢献

1．震災復興への貢献

長野県神城断層地震で大きな被害の発生した小谷村で石碑や石仏などの文化財を、クレーンを使って元通りに起こす作業が行われています。

当社から「復旧の一助に」と小谷村に無償で貸与中のクレーンが威力を発揮して、地域の信仰のよりどころが元の姿を取り戻しつつあります。

ボランティアのオペレーターと地域の皆さんが協力して修復作業にあたる中、当社のクレーンが力強くその作業を支えています。

南木曽町土石流の様子

ボランティア活動に参加して

2014年７月９日に長野県南木曽町で土石流が起きました。人ができない危険な瓦礫撤去にはクレーンの活躍が必要でしたがそれ以上にクレーンにはできない人の手も多く必要でした。私１人の力は微力ですが、少しでも皆さまを励ませることができるよう、これからもボランティア活動を続けていきたいと思います。

海外G　関口玲奈さん

2．地域の企業としての貢献

2.1　企業サポーター

当社の本社所在地の長野市、その長野市を拠点とするサッカーチームが、リーグ昇格を目指してホームスタジアムを改修することになりました。

当社は、企業サポーターとして地元サッカーチームを応援して参りましたが、今回は地元商店街や地域の企業と一体となり、スタジアムの整備費用の一部について寄付を行い、地域の皆さんとともに地元チームの勝利とリーグ昇格を応援しております。

南長野運動公園

2.2　地域への貢献

●催しへの展示

長野びんずる
【はたらくくるまショー（長野県）】

地元の催しなどに「かにクレーン」の実機を展示して地域の皆さま方から身近に自社ブランドを感じていただいています。

●地元の商品

地元商品を使って販売促進グッズを作っています。

「マツキ」（長野市）：
かにクレーンお煎餅

「八幡屋礒五郎」（長野市）：
七味唐辛子

3．お客さまへの貢献

安全に機械を使用していただくために、機械の納入指導からメンテナンス等のアフターフォローの実施、また、お客さまやサービス・販売店への講習会を定期的に行うなど、教育分野での活動に取り組んでおります。

サービス指定工場さまへの講習会

新機種MK1033CW-1納入指導（オーストラリア）

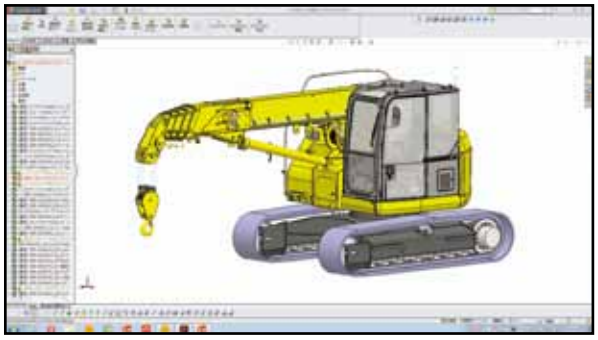
自社ブランドでの貢献

産機事業部　設計課

1．設計理念

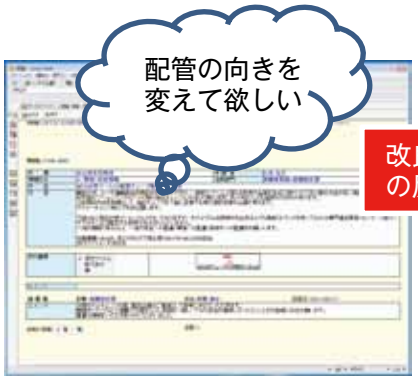
私たちは、設計理念として、お客さまの声を大切にし、また、地球環境にとってより良い商品となるよう製品開発を進めています。

開発のすすめ方
- ●環境負荷の少ない材料の採用
- ●排ガス規制への対応
- ●油圧・電子制御による省エネ機能の搭載



2．お客さまの声を大切に

私たちはお客さまの声を真摯に受け止め、既存製品のモデルチェンジに取り組んでいます。



改良要望の反映

新型かにクレーン

3．日本で海外で

私たちは、本年度もより多くのお客さまのお役に立てるよう、日本向けでは草刈車を、海外向けではナックルブームクレーンを新規開発しました。

お客さまの要望を受けて、草刈作業の安全性向上、作業の効率化を実現

草刈車　MT210-5

海外でのかにクレーン使用用途に合わせた新コンセプト機械を市場導入

ナックルブームクレーン

産機事業部　製造課

製造業にとって重要な改善活動・品質向上など、ものづくりを通じた社会への貢献、また、小学生の工場見学の受け入れにより地域での教育活動にも貢献しています。

1．改善活動

小集団改善活動

毎週30分間の小集団改善活動を実施し、品質向上・コストダウン・安全などについて実績を上げています。

2．製品品質の向上

①特殊工具によるボルトの締め付け

②締め付け完了後のマーキング

① 作業者によるボルト締付力のバラツキを無くすため、定トルク式の特殊な工具を使用し、締め過ぎや緩みを防止しています。
② ボルトの締め忘れを防止するため、締め付け完了後にマーカーのチェックを入れています。

3．地域貢献活動

小学生の工場見学

地域貢献活動の一環として、小学生の工場見学を受け入れています。
見学が有意義になるよう、機械の作り方や仕組み、作業する時の注意点などを、なるべく解りやすく丁寧に説明するよう心掛けています。

機鉄事業部

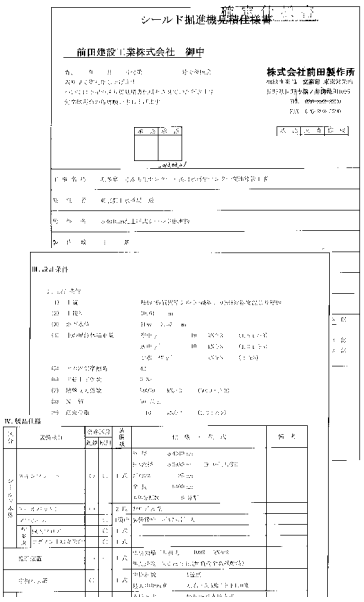
1．私たちの「社会貢献活動」は「保有技術・技能によるステークホルダーの課題解決」

機鉄事業部は、お客さまの課題解決のため、お客さまからの期待に応えるため、われわれの持つ高い技術と技能によるモノづくりによって、さまざまな活動を推進しています。

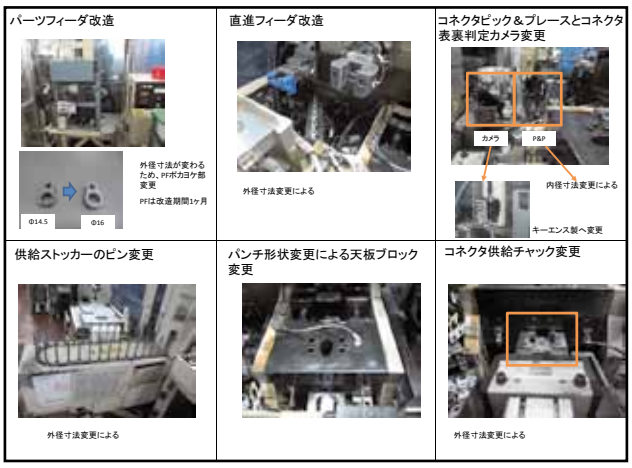
お客さまを含めたステークホルダーと一緒に課題解決のために貢献したいと考えます。

1.1　お客さまや市場からの要求・要請

私たちが手掛ける仕事では、お客さまの要求や要請は「仕様書」という形で具現化し、双方でその内容について確認し合い、ニーズや期待、実現するための課題を共有化します。



お客さまや市場の要求・要請を関係する資料やヒアリングから弊社が仕様書を作成し、共有化したものです。
想定されるあらゆる条件を記載し品質・性能を維持できる製品の製作を目指します。



お客さまからいただく要求仕様書には、膨大な情報が盛り込まれており、実現に向けしっかりと読み込みます。

1.2　お客さまの要求・要請・期待を実現させるために

お客さまの要求仕様が明確となり、その実現に向けての活動が始まります。

どうしたらお客さまの要求に応えることができるのか、お応えするための私たちの課題は何かを「デザインレビュー」により具体化します。

お客さま自身が価値を生み出すために、私たちはどのような能力・資源が必要なのか洗い出します。

↓

- ○　設計・製造・営業の各部門 のノウハウを集めて評価します。
- ○　課題を挙げ、改善点を提案し製品実現に向け進んで良いか確認します。
- ○　審査時には、審査検討表により仕事を進める上での一般的な課題を確認します。
- ○　審査会で出た指摘事項（課題）は、フォロー表で処置計画・実施の確認を行い、次工程に進むか否かの判断を行います。

↓

これらを以って、お客さまの要求する品質に応えられると判断できたならばゴーサインが出されます。

1.3　お客さまに貢献できる製品を生み出す・・・お客さまによる評価

お客さまの品質確保、生産性向上に貢献することを大前提としたモノづくりにより生み出された製品をお客さまの目で評価していただきます。

私たちの技術・技能はお客さまのニーズや期待に応えられているのか。

さらに、ここからはお客さまと私たちが協働でより高いレベルに製品を引き上げます。

φ3080mm 泥土圧シールド
設計仕様を満足し、求める仕事をこなせるか、立会による確認。

MDT30ダンプトラック
実際の作業現場に持込み性能テストにより性能維持状況を評価。

自動車用アルミパイプ部品成形機
お客さまの生産性向上に寄与できる製品か、実加工テストにより検証。

1.4　私たちのモノづくりが貢献するところ

φ4040mm 泥土圧シールド
多摩川を挟んだ２つの水再生センターを繋げる工事に使用。有事の際にセンターを補完し合います。

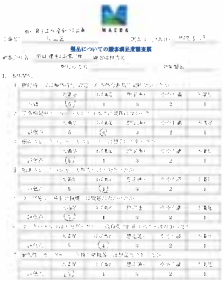
航空機除雪氷車
冬季航空機運航の定時性・安定性を維持、向上するため防除雪氷剤を航空機へ散布します。

水門・除塵機
長期にわたってその品質確保が必要な河川設備。水資源の有効活用と治水を行います。

1.5　私たちのモノづくり評価

お客さまの要求や要請を満足し、利益を生み出しているのかアンケートで活動を評価しています。

得られた情報は次の製品に生かし、モノづくりのレベルアップを図っていきます。お客さまへの貢献は私たちの成長です。



1.6　法令順守、環境保護活動など社会的責任

地域社会への貢献活動も私たちの責任の一つです。

周辺住民への危険周知や安全確保、社屋周辺の道路美化などの環境保護活動も積極的に実施しています。

新規事業部

新規事業部が目指す社会貢献活動

・介護業界従事者の労務負担軽減

・循環型社会への貢献を考え、資源を有効に活用できる製品を開発

1．介護用品メンテナンス機器の開発・販売

高齢化が進む中、介護・福祉用品の需要はますます高まっており、介護用品のメンテナンス・省力化機器等装置の開発を行っています。お客さまのニーズに合わせた製品を開発することで循環型社会への貢献を果たしていきます。

1.1　車いす・歩行車　タイヤ洗浄機「クルット」

様々な形状の車いす、歩行車のタイヤに柔軟に対応し、手洗いでは時間の掛かるタイヤ洗浄作業を簡単にスピーディーに行うことができます。

本装置の大きな特徴は弊社特許による２台同時洗浄が可能なことです。

また、よりセットを楽にした「スロープ＆らくのせ台」を追加機能としました。

【特徴】

・車いすを持ち上げず、転がすだけで簡単セット

・２台同時洗浄可能で処理能力２倍

特許出願済
特願2012-23764

2015年７月　新機能を追加

2．電気・電子機器の開発

お客さま目線に立ち、「安心で安全に使用」・「わかり易い操作」をコンセプトに、自社開発製品のクレーン等に使用する制御装置の開発を行っています。グローバルな要求仕様を満たし、品質・性能を満足する装置を生みだすことで、社会への貢献を目指しています。

2.1　クレーン用過負荷防止装置「モーメントリミッター」

移動式クレーンにおいて、定格荷重の変化でクレーンが転倒しないように、操作状況に応じて警報発報・作動停止させる制御装置です。

表示部を液晶ディスプレイとすることで、「視認性」・「操作性」の向上、「アラームの見える化」をはかり、より安心でわかり易い操作を実現しています。

また、ログ機能を標準装備することで、装置全体の「見える化」を実現しています。

日本クレーン協会検定合格
第14809号

3．ソフト水熱プロセス技術

3.1　ソフト水熱プロセス技術と社会への貢献

昨今、地球温暖化が深刻化する中、企業の環境負荷対策は重大責務となり、製品製造過程及び製造後の処理方法と様々な工程で企業は多額な資金を投じ、環境負荷軽減に苦慮しています。

このような状況を踏まえ、私たちは地球が生まれると同時に、様々な進化の元となっている『水』に着目し、技術開発を行いました。

それがソフト水熱プロセス技術です。

本技術は、『水』を反応媒体とし薬品を一切使用しない為環境負荷が大変少なく、バイオマス有効利用、二酸化炭素の削減、ゼロエミッション等への地球環境に貢献ができるクリーンな技術です。

3.2　ソフト水熱プロセスのアプリケーションの紹介

ソフト水熱プロセスとは、100℃～200℃の高温高圧水蒸気で、乾燥水蒸気　加圧熱水及び飽和水蒸気の各状態を制御し、水のみで他の化学薬品を使うことなく、滅菌、及び有機物質の分解・抽出・乾燥を行う技術です。

⇩

使用済きのこ培地再生処理装置で培地をリサイクル

使い回しができなかった使用済きのこ培地をリサイクルする装置です。この装置開発により廃棄物がなくなり、循環型農業に大きく貢献できる技術です。

⇩

滅菌装置

既存の滅菌は、オートクレーブ（高圧蒸気滅菌）で行っていますが、滅菌工程後に乾燥工程を入れて滅菌を行っています。本装置は、ソフト水熱技術により飽和水蒸気を制御し蒸気流通させることによりトータル滅菌時間を短縮することができる装置です。

⇩

藻油抽出装置

藻油の抽出は、主に有機溶剤を使用していますが、抽出には大変苦慮しています。藻をソフト水熱処理をすることにより、藻から緑原油を容易に抽出できるようにする前処理装置を開発。本装置は、有機溶剤を使用しない為抽出後の廃棄処理工程が不要となります。

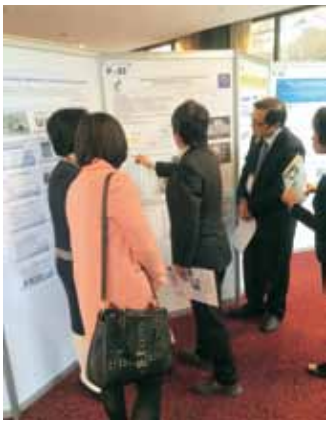
3.3　社会とのコミュニケーション

ソフト水熱技術を多くのステークホルダーの皆さまにご理解頂けるよう、学会、プレスリリース他外部発表を行い、社会とのコミュニケーションを常に図り、新技術応用アプリのさらなる発掘に邁進しております。

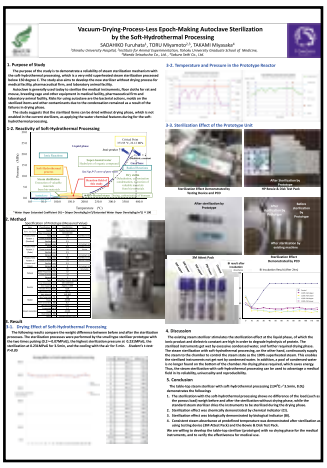
下記に外部発表のほんの一例をご紹介いたしますが、そのほかにも多数の外部発表をしております。

◆2015年２月
長野県庁にて
『きのこ使用済培地再生処理装置』
プレスリリース

◆2014年12月
韓国にて
第13回東アジア感染制御カンファレンス
『ソフト水熱プロセスによる新しい滅菌器の開発』
ポスター発表



※ポスターはエクセレント賞に選ばれ表彰されております。



コマツブランドでの貢献

建設機械本部

『お客さまの理想を実現するために・・・』

私たち建設機械本部は、世界の建機メーカ　コマツの総販売代理店として、長野・山梨・愛知・三重の４県で事業を展開しており、1962年創業以来、50年以上にわたり、販売・レンタル・サービスを通じ、お客さまとともに建設・土木の現場に携わらせていただき、常に『顧客視点』に立ち、お客さまの理想を実現するために高い目標を掲げ、『意欲』を持ってチャレンジしております。

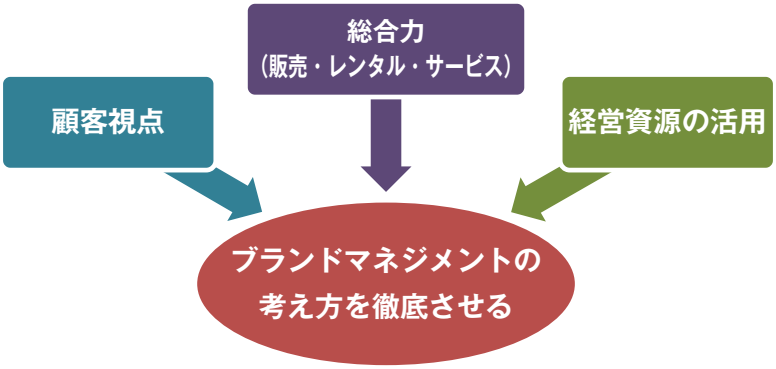
また、社会から求められる企業のあり方として、『本業を活かした社会貢献活動』を積極的に推進しております。

１．ブランドマネジメント活動『お客さまの真の目標を掴む』

当社では2013年度よりブランドマネジメント活動を積極的に推進しております。

ブランドマネジメントとは、お客さまと共存、共栄を図るために、常に『顧客視点』に立ち、現場の問題点をお客さまと共有し改善提案等を行うことを通じて、お客さまの信頼性を高め、関係性を向上させる活動です。

その活動実施のため徹底的に見える化を図り、当社が持つ経営資源を惜しみなく活用しております。



また、建設機械本部ではブランドマネジメント発表大会を開催し、現在活動中の実践・取組みを通じて、社員一同が新たな気づきや知見を共有し、今後の活動に水平展開をし、人材育成・組織能力の向上を図る“場”としております。

2．提案活動『パートナーとして選ばれ続けられる存在になるために』

2.1　環境負荷低減
『ハイブリッド油圧ショベル』

コマツでは2008年世界で初となる、ハイブリッドシステムを搭載した油圧ショベルを発売しました。

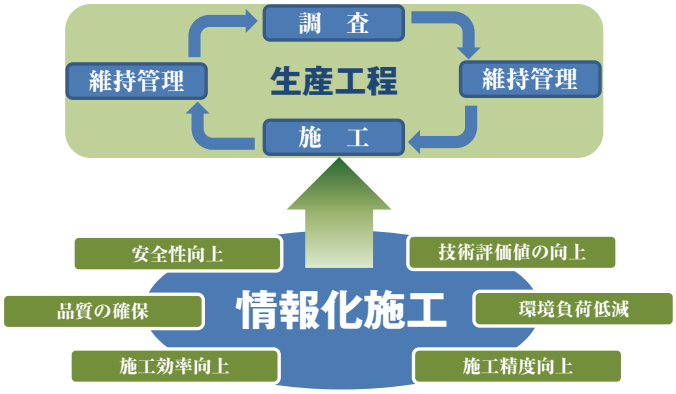
環境負荷低減・CO_2削減が大きな関心事となっている昨今、提案活動を通じ、多くの機械を市場に導入しました。

購入されたお客さまからは、「維持コストが大幅に低減した」との、喜びの声もいただいております。

2.2　情報化施工
『建設 ICT を駆使し、施工効率・精度・安全性が大幅向上』

ICT 搭載建設機械は、非熟練者でも高精度な作業が可能となり最適な施工の提案で作業効率が向上します。

当社ではいち早く、情報化施工機器をレンタル機器として導入し、お客さまの現場・思考にあった、機器と“考え方もレンタル”をしております。



また、お客さまに対し、『情報化施工セミナー』を定期的に開催し、実際に最新技術・機器などに触れていただき、情報化施工技術の推進に力を入れております。

2.3　その他の提案活動
『高性能林業機械・環境リサイクル機械』

林業労働者の高齢化及び減少、生産性の向上、安全性の向上のため、高性能林業機械の市場導入が急務となっております。

当社では、それら問題に対し、多彩なアタッチメント専用車を取り揃え、林業機械のご提案をさせていただいております。

コスト削減・環境負荷の低減は、お客さまにとって大きな課題となっております。

当社では現場循環型工法を積極的に推進しており現場で発生した建設副産物を運搬せず、現場内で有効利用することで、問題解決に貢献しております。

3．展示会・イベントの開催

当社ではお客さまと、より一層のコミュニケーションを深めるために展示会・各種イベントを積極的に開催させていただいております。

展示会等を通じ、お客さまに対し、様々な商品・情報のご提供をさせていただいております。

4．社会貢献活動『長野県神城断層地震への対応』

2014年11月22日に長野県北部、北安曇郡白馬村を震源とした、マグニチュード6.7の地震が発生しました。

当社では、被害の大きかった小川村に対し、いち早く、ミニショベルを無償で貸与し、復旧事業に大きく貢献いたしました。

従業員への貢献

従業員への取り組み

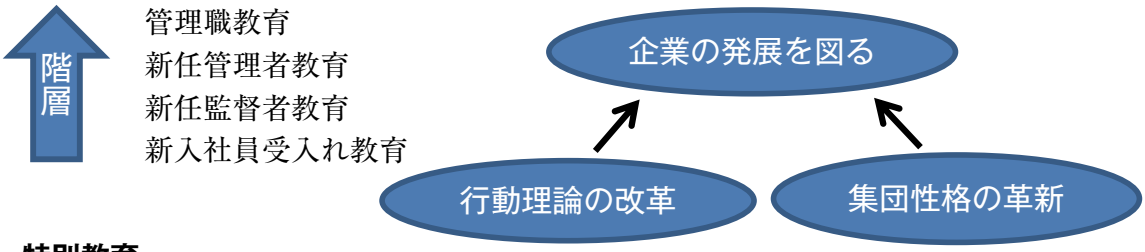
企業活動の主体は「人」。従業員が安心して働ける環境の中で持てる能力を発揮し、個性を生かす人材を育成しています。

また、従業員が誇りとやりがいを持って働くことができるよう、ワークライフバランスの推進等、より良い職場環境づくりに取り組んでいます。

1．人材の育成

1.1　階層別教育

その節目に必要な知識・マネジメント能力等の向上を目指した職位別教育を実施しています。



1.2　特別教育

環境推進・内部監査員教育

職長教育

マナー教育（外部講師による）

・電話応対研修…マナーリフレッシュ教育

お客さまとの大切な架け橋となる電話応対、取り次ぎ方一つで会社の印象が決まります。

（研修内容）

①感じの良い電話応対のために

②第一声の大切さ：好感を与える第一声のポイント～録音～

③好感を与える話し方・聞き方：言葉づかい～具体例～

④電話応対の基本：受け方・かけ方の基本、取り次ぎ電話

ケース別対応～ロールプレイング実習～

みなさん緊張しながらも
相手の立場になって、
取次ぎ応対をしています

1.3　技能教育

お客さまのニーズにお応えするために、高い技術力の維持・発展と、技術者の能力向上を目的とした技能教育を実施しています。

入社後は経験年数に応じた資格取得をめざし、OJT を中心とした技能教育を行っています。

また、資格難易度を評価できる人事制度改革に取り組み、資格取得のバックアップを計画的に実施し、社員のスキル向上の意欲をサポートしています。

2．ワークライフバランス

従業員一人ひとりが誇りとやりがいを持って働くことができるよう、「ワーク・ライフ・バランス」の充実を図るための支援体制を整えています。

2.1　育児・介護支援制度

2010年６月より、改正育児・介護休業法が施行され「短時間勤務制度の導入義務づけ」、「子の看護休暇の充実」等が追加されました。

このように法改正が進み子育て支援制度が整備されている中、当社は雇用の多様化に真剣に取り組み、社員がゆとりを持って働ける職場環境を充実させ、仕事とプライベートを両立させることが重要と考えています。

休暇制度の利用状況（2015年３月まで）

項　目	男性	女性	合計
産前産後休暇取得者数	―	16名	16名
育児休業取得者数	２名	16名	18名
短時間勤務者数	―	14名	14名
介護休業取得者数	１名	―	１名
子の介護休暇制度	１名	―	１名

2.2　心の健康づくり

私たちは、「安全で快適な職場の創出」に基づき、従業員の身体だけでなく、心の健康づくりを推進するため「メンタルヘルスケア推進方針」、「心の健康づくり実施要領」を掲げ安心して働ける職場づくりに取り組んでいます。

2.2.1　ストレスチェック

2015年12月１日よりストレスチェック制度が義務づけられることとなりました（改正労働安全衛生法）。

当社では、心の健康も体の健康と同じく、早期発見・早期対応が第一と考え、2011年より「ストレス診断」・「ストレス学習」を全従業員に対し実施しています。

【実施内容】

①ストレス診断

厚生労働省指導による「職業性ストレス簡易調査票」をもとに、パソコンで57項目の質問に答えて診断をします。

心の状態がどのように変化しているかを、過去データと比較することができる。

↓ 重要

自分では、なかなか気づきにくいことだからこそ、目に見える形で管理できる仕組みにしています。

②ストレス学習

動画の学習教材を視聴し、確認テストを行う形式（ｅラーニング）

内容	対象者	項　　目
セルフケア編	管理監督者を含む全社員	ストレス知識･上手な付き合い方･不調への対応など
ラインケア編	管理監督者	部下への対応・必要性など

↓

動画を使ったわかりやすい学習教材によりストレスに対する迅速な対応が図れています。

1．安全衛生における社会貢献活動

1.1　お客さまへの貢献

当社はクレーンメーカであり、またコマツ製建設機械のディーラーという２つの大きな事業があります。

導入して頂いた機械についてご説明等をするのは当然の義務でありますが、お客さまのご要望により、お客さまが実施される安全教育の講師や玉掛けや小型移動式クレーンの技能講習修了者に対して能力向上教育の講師も務めさせていただく等して、お客さまの安全に対して貢献しているものと考えています。

（クレーンの取扱い指導）

（玉掛け実技指導）

1.2　家族への貢献

定期健康診断は実施が法令で定められています。

当社では法令で定められた健診項目では社員の健康確保はできない、という考えのもとで、生活習慣病検診に等しい健診項目で定期健康診断を実施しています。

また、30歳以上の社員には会社で補助金を出すことにより人間ドック受診を奨励しています。

このような結果、当社の健康診断受診率は３年連続で100％となっています。

これは、社員一人ひとりの健康は家族のためであり会社のためでもあるという思いからです。

2．安全成績

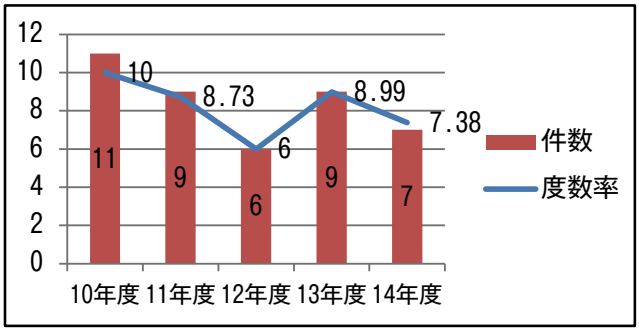
当社は「労働災害ゼロ、交通事故ゼロ」のゼロ災害を安全目標としています。

労働災害では、不休業災害でも災害件数に数える全災害度数率を採用しており、業務中にいかなる災害も起こさない決意のもとで業務に励んでいます。

また、交通事故では当社側に過失割合が少しでも発生するものを事故件数としています。

2.1　労働災害

労働災害件数と度数率

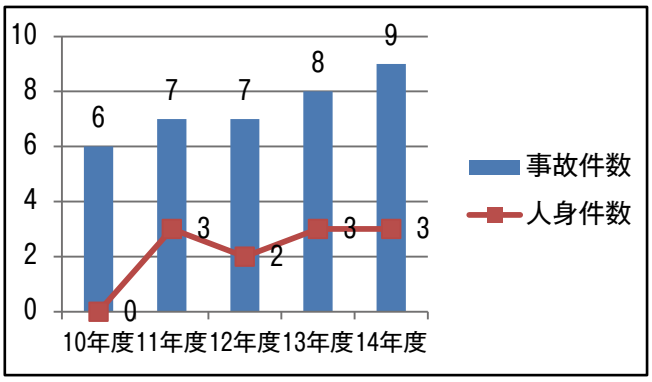


災害撲滅の為、作業前 KYK の活性化を図り、ヒヤリハットに基づくリスクアセスメント教育を実施し、身近な危険を事前に摘み取る仕組み作りを展開中です。

（療養給付請求したものを災害件数としています）

2.2　交通事故

事故件数と人身件数

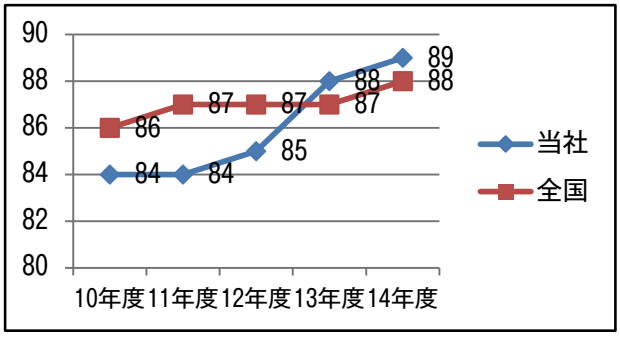


当社は４ｔクレーン付車から乗用車まで300台の車両を社有車として使用しています。

当社側に過失が10％でもあれば事故としてカウントしている面もありますが、発生件数が増加していますので、安全運転管理者や事業所長による所属員指導を強化しています。

2.3　SD カード（運転記録証明書）

SD カード取得率

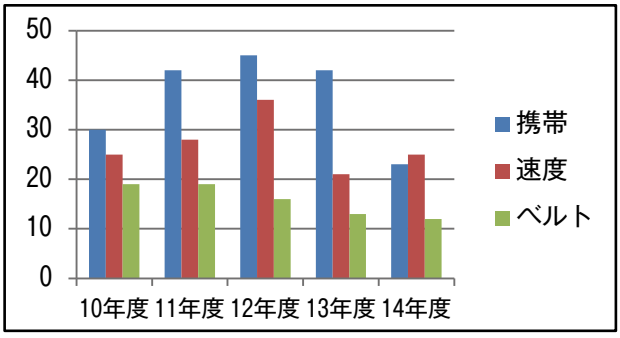


全役員及び社員から SD カード申請の委任状を取付け毎年３月に申請し、結果を交通安全教育に活用しています。

13年度以降取得率が全国平均を上回り、社員の交通安全に対する意識の向上が図られていると考えています。

今後は100％を目指していきます。

違反件数の推移



当社の交通違反行為は、運転時の携帯電話保持、速度違反、シートベルト未着用の３行為で違反行為の多くの部分を占めます。

14年度は携帯電話違反が大幅に減少しましたが、今後は携帯電話、シートベルト共にゼロ件となるように安全教育を展開していきます。

3．ゼロ災を目指して

「安全はトップから」ということで、役員による安全パトロールや安全講和を行うと共に、全国安全週間に併せて安全大会を本社会場と名古屋会場で開催しています。

役員安全パトロール

32事業場に AED を設置したので、安全大会では AED の実技指導を受けました。

グループ会社の社会貢献

株式会社ネオックス

新潟県と長野県の県境に位置し、豪雪と美味しいコシヒカリで有名な新潟県中魚沼郡津南町に事務所＆工場があります。
事業内容は、移動式クレーン・高所作業車・油圧ショベルなどに使われる油圧シリンダーの設計・製造・販売です。

1．当社のお客さま

当社は各種機械のシリンダーの製造を行い、納品先は親会社の前田製作所をはじめとした機械製造・機械器具製造等の会社です。

クレーン伸縮シリンダ

2．品質

「品質至上」を基本理念とした品質方針

1．魅力ある製品づくりに徹してお客さまの期待に応える満足を提供することを基本とする。
2．関連する法規、業界基準を遵守し、設計・開発および製造の質の向上を図る。
3．要求事項への適合と品質マネジメントシステムの継続的改善により有効性を確保する。
4．品質目標を定めて定期的な見直しにより常に最高の品質に挑戦する。
5．社員は組織の役割を理解し、品質方針・目標を達成するための研鑽に努める。

（2002年２月　ISO14001　認証取得
2004年１月　ISO 9001　認証取得）

3．社会貢献、地域との繋がり

3.1　近隣小学校の工場見学受け入れ

2014年11月　栄小学校（長野県）５年生が来社。事前にスケジュールを組み、工場見学・高所作業車体験・各種測定器の体験などを行いました。

また、2009年に津南小学校５年生、2011年に上郷小学校５年生など町内の小学校からの工場見学依頼も受け入れており、地域の子供達の社会学習に協力しています。

3.2　津南町異業種交流会会員…行政への要望及び毎年恒例の従業員交流会などに参加しています。

3.3　津南町観光協会会員…夏期、津南ひまわり広場の駐車場整理員として協力しています。

3.4　津南町商工会工業部会員…技術研修会への参加や、町内美化運動（工場付近 R117沿線の空き缶、ゴミ拾い）等に参加しています。

当社のある津南町は有数の豪雪地帯として知られ、降雪時期となると各社の報道でもとりあげられます。

雪国であるが故に地域社会との結び付きも強く、地域の各種行事にも社員を派遣して協力しています。

町内美化運動

津南ひまわり広場
（駐車場整理員）

株式会社フォードマエダ

1987年に埼玉県入間郡鶴ヶ島町（現：鶴ヶ島市）においてフォード正規ディーラーとして設立し、西埼玉鶴ヶ島店をオープン。

フォード車・各種中古車の販売とアフターサービス、一般の車検及び点検・整備、各種保険のお取り扱いをしています。

2004年には長野市篠ノ井に長野保険センターを開設し、グループ企業をはじめ地域の皆さまからの多種多様な保険ニーズにお応えしております。

1．お客さまとのコミュニケーション

車両購入、点検整備、各種保険等自動車に関するすべてのことにおいて、「フォードマエダに相談してよかった。」と言っていただけるように、お客さまに出会った瞬間からコミュニケーションを大切にしております。

2．地域社会への貢献

毎月１回、店舗を中心とした近隣歩道の清掃活動や通学路に隣接しているため「子供110番の店」としての活動をお手伝いさせていただき、日常の身近な部分で貢献しております。

また、地域の福祉団体が実施する段ボールのリサイクル回収活動に参加協力させていただいて、資源リサイクルを通じ循環型社会へ貢献しております。

3．エコへのお手伝い

フォードが新たに開発した次世代の低燃費エンジン「エコブースト・エンジン」は、単に速い馬であった自動車を速くて愉しい、そして低燃費の自動車に変身させ、そのバリエーションは1.0Ｌ・1.5Ｌ・1.6Ｌ・2.0Ｌ・2.3Ｌとなりました。

【フォード西埼玉鶴ヶ島店】

・Ford 1.0-liter EcoBoost®engine

今後も、エコブースト搭載車両の販売と確実に整備された中古車の販売をとおしてエコのお手伝いをし、お客さまから車検や点検・整備で入庫頂いた車両にも確かな技術により満足いただける作業を行ってエコの推進を図っていきます。

株式会社サンネットワークマエダ

1．事業活動

前田製作所は、経営戦略の一環として2005年４月にサンネットワーク中部株式会社と提携し介護用品卸レンタル及び販売事業に参画しました。

高齢化社会において、長期的に成長が期待出来る分野であり、社会的貢献ができる事業として2008年９月に株式会社サンネットワークマエダを設立し、同年10月にサンネットワーク中部の事業エリアを譲り受け、事業を開始しました。

現在は、長野・山梨・愛知・三重の４県で11店舗を展開し、迅速なサービスの提供に努めております。

2．会社理念

2000年４月より介護保険制度が施行され、その利用者は高齢化の進行と共に増加しております。

介護保険制度は、企業分野において従来の官から官民の協調による民間活力により、多様なニーズに応えるべく施行された制度であります。

中でも在宅介護の充実が利用者ニーズであり、従来の「物を所有する」時代から「機能を利用する」時代に生まれた新しいサービスである福祉用具レンタルの貢献が求められています。

福祉用具レンタルにおいては、迅速なデリバリー・清潔な商品の提供・福祉用具使用に対する各種補償制度の充実が重要であり、より顧客に密着したサービスを提供している福祉用具貸与事業者の後方支援が、利用者の視点に立った最適なサービスと考えています。

「福祉用具の貸与を通じて、お客さまと共にご利用者さまの自立を支援する事」

これが私たちの目標です。

3．品質方針

お客さまの安全・安心を最優先に考え、『キレイな商品』・『顧客満足度の高いサービス』を継続的に提供する

1）関連する法規・業界基準を遵守し、サービスの質の向上を図ります。

2）ISO9001の品質マネジメントシステム規格への適合と継続的改善による有効性の向上を図ります。

3）お客さまの発展に貢献する為に品質マネジメントシステムを効果的に実施することにより、企業の成長と発展を実現します。

4）品質方針を全社員に伝達し理解と浸透をはかると共に品質目標実現のため全社的に教育を推進します。

※「品質方針」は制定しましたが、ISO9001の認証取得は準備中です。

4．品質管理

4.1　清潔な商品

レンタルから戻った商品は、オゾンガス消毒・微酸性電解水消毒・逆性石けん消毒等の消毒と清拭を行い、清潔な商品を提供することで、取扱者・ご利用者さまの安心に努めています。

4.2　安心できる商品

安心して使用していただくため、修理・調整を行い最終チェックに合格したものを提供しています。

2013年度にシルバーマーク（※）を取得しました。

※福祉用具の消毒工程管理認定制度

福祉用具の安全衛生管理が適切に行われていることを第三者が確認し、その結果を利用者に表示する仕組みとして運営されています。

実施主体　一般社団法人シルバーサービス振興会

福祉用具消毒工程管理認定証

事業者名　(株) サンネットワークマエダ
代表者名　宮　下　敏　二
事業所名　サンネットワーク松本
所 在 地　長野県松本市野溝西3－13－17

初回・更新の別　初　回

貴社の上記事業所が実施する福祉用具消毒工程管理は本会が定めた認定基準に適合しているものと認定します。

平成25年10月　14
一般社団法人シルバーサービス振興会
理事長　水田　邦雄

認定番号　D (1) 2510105002
有効期限　平成 27年 9月 30日

福祉用具消毒工程管理認定番号	
サンネットワーク三　重	D(1)2510105001
サンネットワーク松　本	D(1)2510105002
サンネットワーク名古屋	D(1)2602105003
サンネットワーク上　田	D(1)2602105004
飯田メンテナンスセンター	D(1)2706105005

5．社会貢献活動

独立行政法人国際協力機構（JICA）

青年海外協力隊「世界の笑顔のために」プログラムに賛同し、毎年 JICA を通じて世界各地の福祉施設に車いすや杖などを寄贈しております。

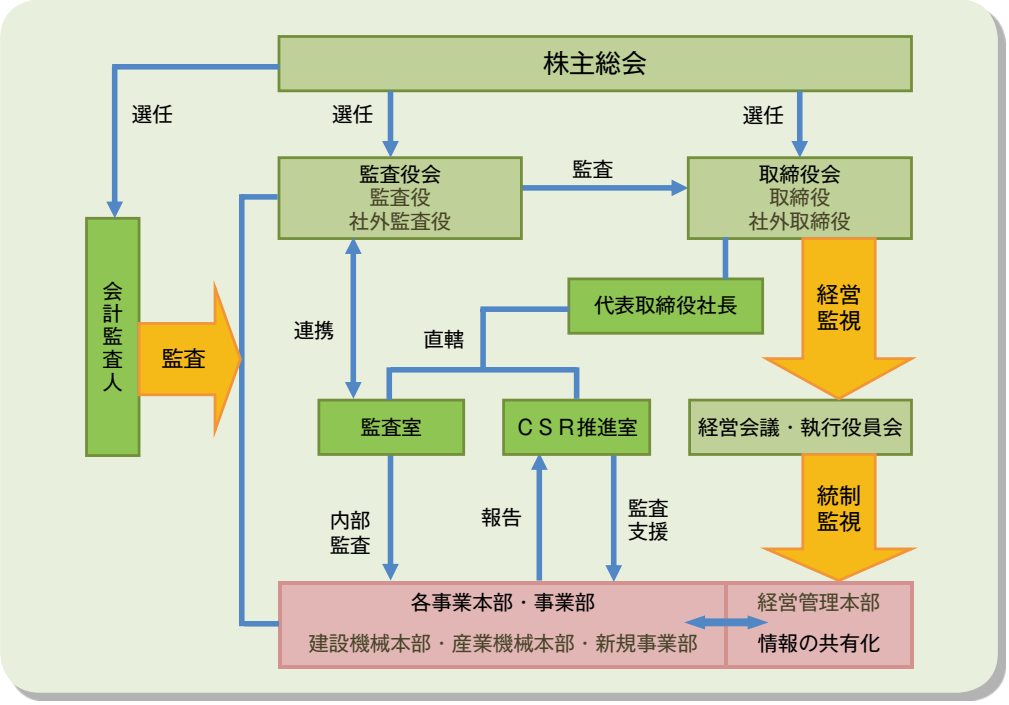
【スリランカからの手紙】

【ホンジュラス共和国の方々】

CSR・コンプライアンス

1．コーポレートガバナンス体制

企業不祥事は企業の存在自体危うくしかねないため、当社はコンプライアンスの重要性を認識し、事業活動に関する説明責任や、経営の効率性、健全性、公平性ならびに透明性を含めて経営体制の整備を進めています。また、株主の皆さまやお客さまをはじめ、あらゆるステークホルダーと良好な関係を築き、適宜適切に情報開示していきます。そのためには、株主総会、取締役会、監査役会、執行役員会など、機関機能を一層強化・改善・整備しながら、コーポレート・ガバナンスを充実させていくことが必要と考えております。



2．リスク管理体制

「企業行動憲章」の実行を阻害するリスクに対して、当社では、「リスク管理方針」及び「リスク管理規程」を制定し、「リスク管理委員会」においてステークホルダーに重大な影響を及ぼすリスクの特定や対策等について討議し、発生しうるリスクに即時対応できるよう管理しています。加えて2011年３月発生の東日本大震災や長野県北部地震を教訓に事業継続計画（BCP）を構築しています。

2014年度は、東海・東南海地震発生を想定した訓練を実施しました。従業員の安否確認・津波予想地域内営業所の避難訓練・本社と名古屋支店を結んだ対策会議（WEB 会議）等で、これらの訓練により、計画の実効性を確認しました。

3．CSR・コンプライアンス

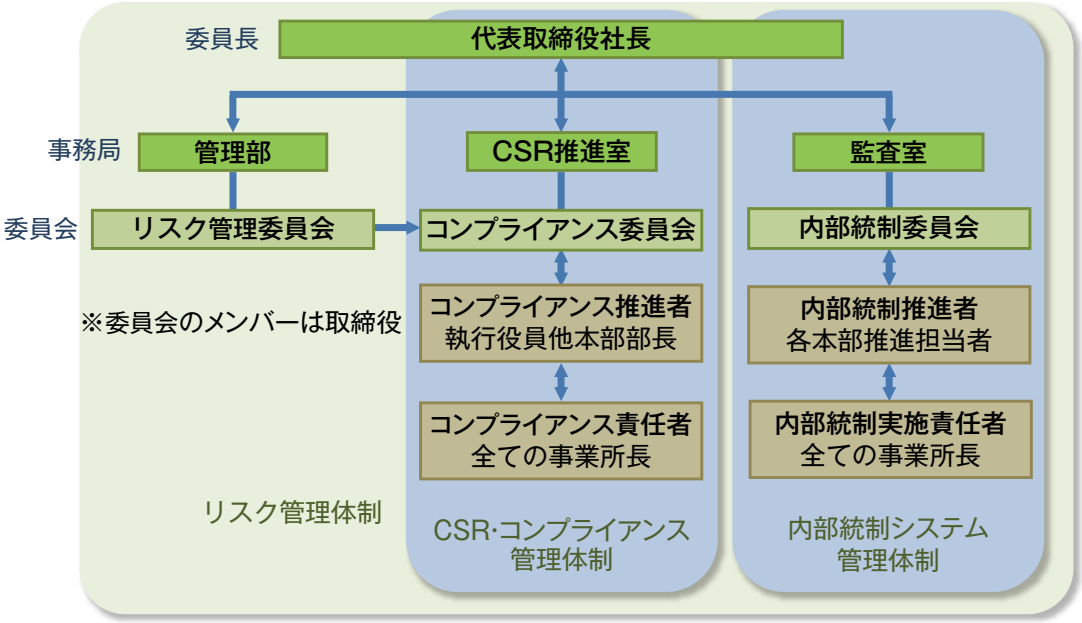
3.1　CSR・コンプライアンス体制

CSR・コンプライアンスに関する専門部署として社長直轄組織の CSR 推進室を設置し、「コンプライアンス委員会」を運営しております。当社独自の「コンプライアンス

チェックシート」により、全事業所を対象に自主点検を年２回定期的に実施し、コンプライアンス意識の向上と徹底を図っております。また、企業および社員が果たすべき社会的な役割と責任を明確にした「企業行動憲章」について、機会あるごとに社員一人ひとりが確認できるように携帯用冊子「マエダ企業行動憲章」の配布やCSR・コンプライアンス教育を随時実施しています。

3.2　個人情報・知的財産の管理

個人情報の管理については、「個人情報保護法」に定められた個人情報に関して「個人情報管理規則」を制定し、保護・管理を行っております。また、近年、社会問題視されているソーシャルメディアを通じた情報漏洩やコンピューターウィルスによる被害を防ぐため、「情報システムセキュリティー規則」を定めて漏洩やウイルス感染防止に努めております。知的財産については、「発明・考案取扱規定」を制定し、管理部署として知財グループを設置し、管理・運営しております。



4．内部統制

4.1　内部統制システム

当社は、健全な事業活動を確保し、ステークホルダーの皆さまに対する社会的責任を果たすことを目的とし、経営環境からもたらされる経営リスクを事前に抑止するため金融商品取引法で求められている内部統制報告制度に対応した「内部統制基本方針」を定め、内部統制システムの整備・運用体制を構築し、管理運営しています。

4.2　内部統制管理体制

内部統制に関する専門部署として社長直轄組織の監査室を設置し、「内部統制委員会」を運営しています。監査室は、内部統制システムに基づき全事業所を対象に、監査指導を随時実施しています。違反や問題のあった事項については委員会に報告し、審議しています。

4.3　内部通報窓口（企業行動ヘルプライン・ホットライン）

公益通報者保護法に基づき当社では、企業の不祥事をいち早く発見し、通報した社員を不利益な取扱いから保護するための内部通報システムとして、「企業行動ヘルプライン・ホットライン」を設けております。このシステムは、社内のコンプライアンスを徹底する意味で非常に重要であると捉えており、通報窓口として社内と社外（顧問弁護士）に、また、社外のステークホルダーからの通報やご意見を受付ける場としてホームページ上に窓口を設け、社外コミュニケーションをとっております。

環境への貢献

1．2014年度環境方針

1．環境負荷低減をコスト低減と捉え、CO_2と産業廃棄物の排出量を削減する。

2．内部環境監査を充実させ、人材の育成とシステム全体の改善を推進する。

3．販売・サービス及び設計・製造の業務に ISO を生かし、環境負荷を低減する。

4．「前田版エコポイント」を実施し、日常生活での環境活動を通じ環境意識を向上する。

上記「環境方針」を受け、各エリアの環境推進委員を中心に具体的な取り組みを展開しました。

1.→ ①当社の地球温暖化防止への取り組み、循環型社会への貢献活動です。
⇒【p.32，33】をご覧ください。

2.→ ②内部環境監査員の教育・訓練から監査の実施まで CSR 推進室も支援しました。
⇒【p.29】をご覧ください。

3.→ ③本来業務（オリジナル活動）の環境表彰を行いました。
⇒【p.35】をご覧ください。

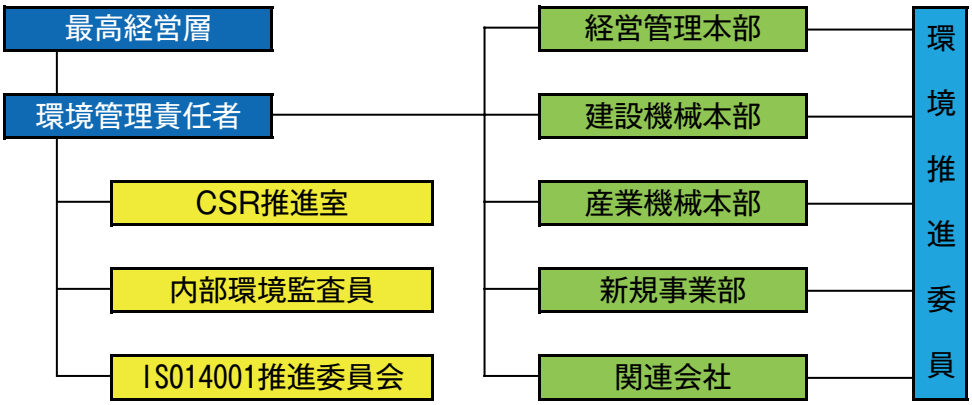
4.→ ④「前田版エコポイント」が新しいシステムになりました。
⇒【p.37】をご覧ください。

2．環境経営活動の体制と展開

当社の環境経営は、ISO14001推進委員会（環境管理責任者を長とし各部門の代表で組織）が、環境マネジメントシステムの構築と維持管理に関する諸施策の審議を行い、経営トップに上申して管理レベルの向上を図っています。

ISO14001推進委員会の下部組織として課題別にフレキシブルにワーキングループを設置し、問題点抽出と対策立案を行っています。

また、環境マネジメントシステムの活動単位となる各事業所に環境推進委員を置き、活動の推進と進捗管理に対する責任と権限を付与しています。



3．環境関連法対応状況

環境に関する法律・規制、自治体の条例及び業界の順守事項については、ISO14001推進委員会で内容を特定しています。

また、これら順守事項を常に最新管理するため、定期的に調査・見直しを実施しています。

主な法令・条例	内　容	実施部門
○大気汚染防止法	・ばい煙発生施設の届出 ・ばい煙量等の測定	㈱ネオックス
○水質汚濁防止法	・特定施設の届出 ・排出水の汚染状態の測定	㈱ネオックス 本社・工場
○浄化槽法	・定期水質検査 ・定期点検及び清掃の実施	設置事業所
○騒音・振動規制法	・特定施設の届出 ・騒音の測定	設置事業所
○廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・産業廃棄物の適正処理 （保管・業者委託・特別管理産業廃棄物）	全事業所
○ PCB 特別措置法	・PCB 廃棄物保管状況の届出	保管１事業所
○工場立地法	・特定工場の届出	本社・工場
○消防法 ○火災予防条例 ○ PRTR 法	・危険物貯蔵所の許可 ・少量危険物貯蔵所の届出 ・第１種指定化学物質の使用・取扱量の把握及び排出量・移動量の届出	設置事業所 本社・工場 ㈱ネオックス
○特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	・総括者・管理者の届出 ・汚染物質の排出測定	㈱ネオックス
○環境教育推進法	・環境保全の意欲の増進及び環境教育	全事業所

4．環境監査

4.1　内部環境監査

当社の環境マネジメントシステムが、ISO14001：2004規格要求事項に適合し、適切に運用され継続的に改善が図られているか確認するために、内部環境監査を行っています。

2014年度の内部環境監査は、最低限やっていなくてはならないものの基準を「不適合基準ガイドライン」に示して評価の平準化を図り、厳しい目で監査を実施しました。

内部環境監査における指摘事項は、監査終了後１ヶ月を目処にフォローアップ監査で内部環境監査員が改善の確認をしています。

2014年度内部環境監査結果	
日程	2014年6月
不適合事項	2件（前年度 0件）
要観察項目	81件（前年度71件）

4.2　外部審査

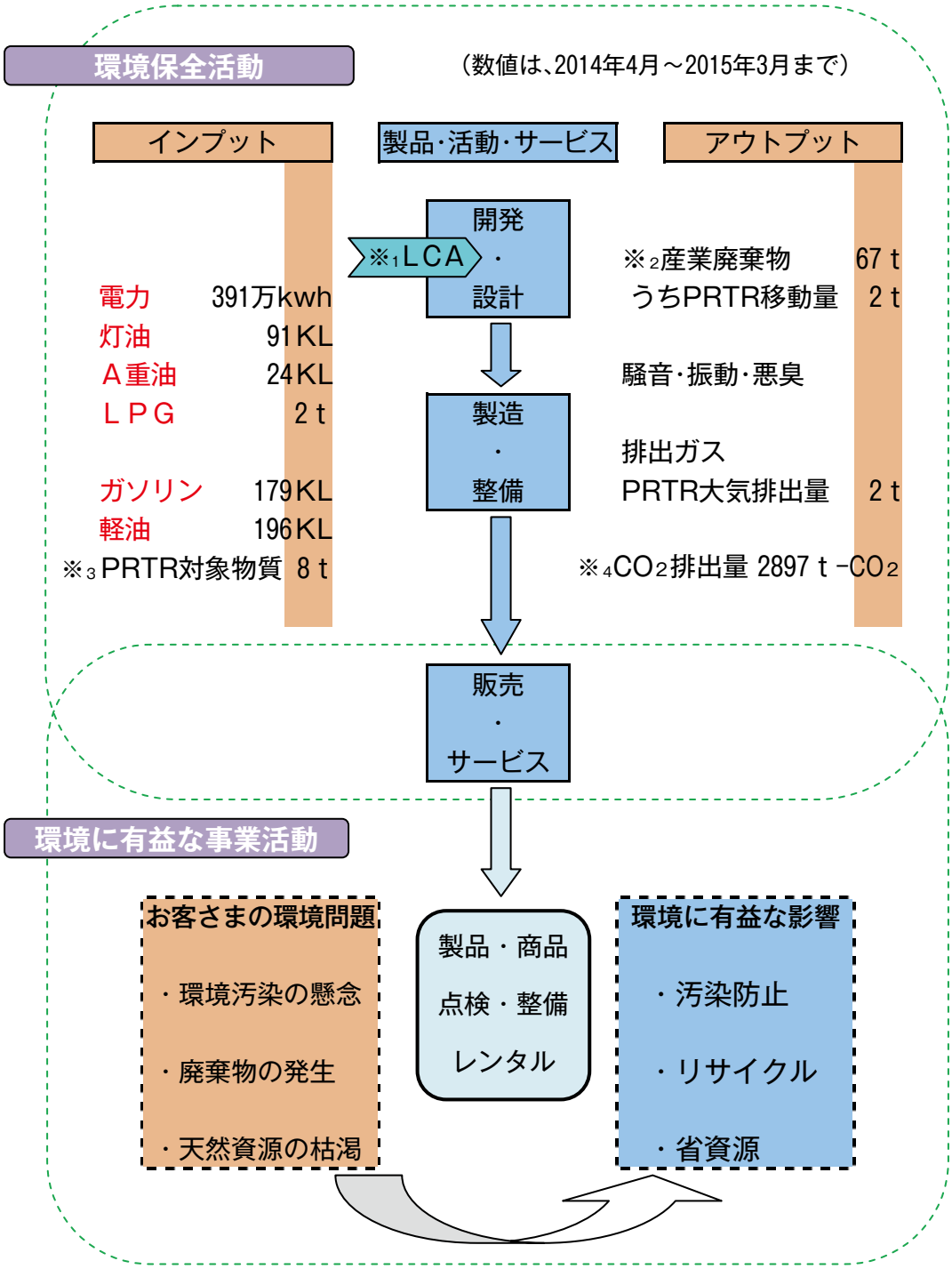
2014年度の外部審査（定期審査）結果は、右表の通りとなりましたが、審査登録機関より「ISO14001規格に基づく環境マネジメントシステムが包括的に継続して満足している」との判定結果をいただきました。

2014年度外部審査（定期審査）	
グッドポイント	1件
改善の機会	5件

上記指摘事項に対する改善は、該当受審部門において改善を完了しています。また、ISO14001推進委員会で審査結果の対応検討を行い、全社に水平展開してシステム改善に繋げています。

５．環境負荷の概況

当社の設計・製造・販売・サービスの工程の中で、環境に与える負荷の状況と環境に有益な事業活動の概念を、主な環境データと表した情報を開示します。



※1　LCA：ライフ・サイクル・アセスメント
※2　産業廃棄物：焼却・埋立処分されるもの
※3　PRTR 対象物質：使用・取扱量が１トン以上の事業所の合計
※4　CO_2排出量：使用した電力や重油など（インプットの欄）に「CO_2排出係数」（地球温暖化対策推進法に基づく環境省の算出方法ガイドライン）を乗じて算出。

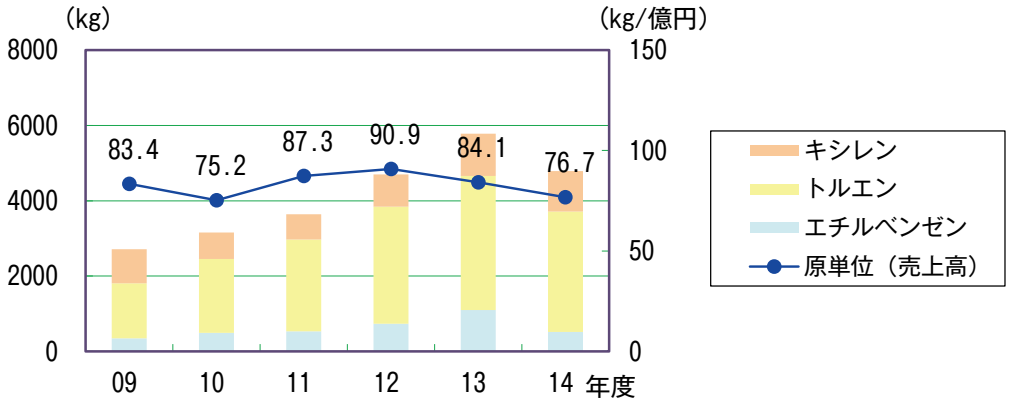
6．化学物質の管理

6.1　本社・工場

2014年度は、主力自社商品である「かにクレーン」の海外輸出が増加したものの、「クローラクレーン」が減少しました。それに伴い、原単位（売上高）も、前年の68.7に対し62.4と改善されました。

今後とも特定化学物質の含有率が低いものへの転換を推進し、環境負荷低減を図ります。

○自社商品の第１種指定化学物質（塗料・シンナー）使用量推移



年　　度	09	10	11	12	13	14
第１種指定化学物質使用量（kg）	2,712	3,160	3,638	4,697	5,781	4,786
自社商品売上高（億円）	32.5	42.0	41.7	51.7	68.7	62.4

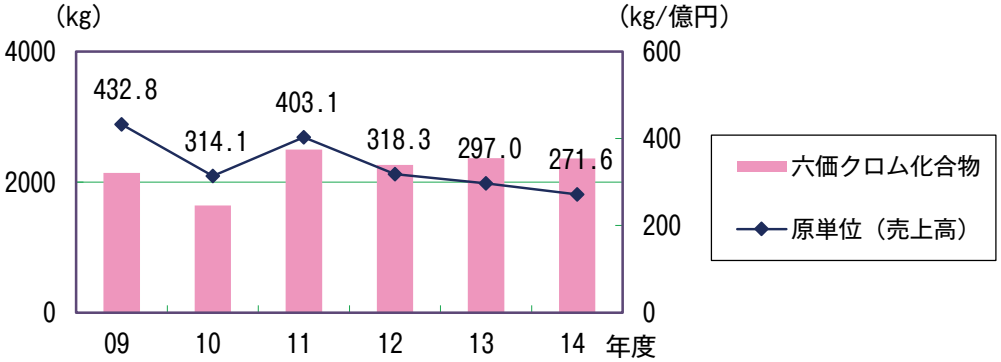
6.2　関係会社

㈱ネオックスの六価クロム化合物は、シリンダーのメッキ加工に使用しています。

2014年度は、売上が向上し前年度比で使用量（注１）も増加しましたが、原単位では改善しました。

今後とも化学物質の適正な管理とメッキ廃液のリサイクル化などの改善により、環境負荷低減を推進します。

○㈱ネオックスの特定第１種指定化学物質（六価クロム）使用量推移



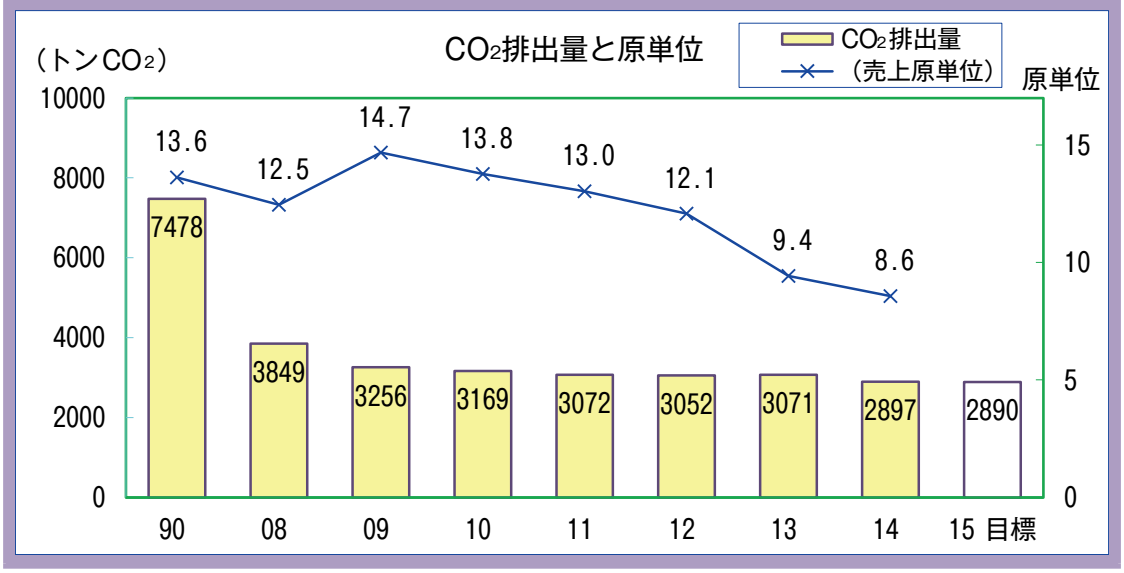
年　　度	09	10	11	12	13	14
六価クロム化合物（kg）＊	2,138	1,643	2,499	2,260	2,364	2,360
売上高（億円）	4.94	5.23	6.20	7.10	7.96	8.69

＊特定第１種指定化学物質（注１）使用量にメッキ槽の入替量は含まれていません。

7．地球温暖化防止（CO_2排出量削減）

7.1　環境目的及び目標

○環境目的
地球温暖化防止対策を推進し CO_2排出量を2015年度までに2012年度比で６％削減し、94％にする
［全社排出量を2015年度までに2,897トン CO_2にする］
○2014年度環境目標
CO_2排出量を2012年度比で２％削減する
［全社排出量を3,016トン CO_2にする（売上原単位13.0）］



7.2　取り組み結果

各エリア・部門は、設定された目標に対して独自の方策を立案し、削減活動を推進しました。

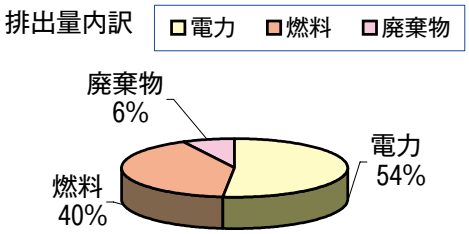
(1)　**目標達成のための方策**

①電　気：・LED 蛍光灯への切り替え（本社工場）推進
・夏季のクールビズと冬季のウォームビズの推進※$_1$
・待機電力削減用コンセント、パソコンの省エネモード設定
②燃　料：・エコドライブ、※$_2$　KOMTRAX による車両移動の効率化維持
③廃棄物：・分別による可燃ごみの削減、その他産業廃棄物削減の方策実施

(2)　**取り組み実績と今後の課題**

2014年度の CO_2排出量は、2,897トンと目標をクリアーし、前年比で5.7％削減しました。また、売上高の原単位も2013年度の9.4に対し8.6と改善されています。

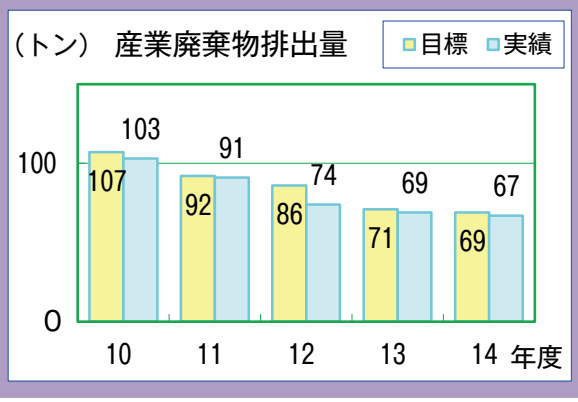
※$_1$ 地球温暖化防止のため「クールビズ」は夏のエアコンの温度設定を28℃に、「ウォームビズ」は過度に暖房に頼り過ぎないビジネススタイルです。
※$_2$ KOMTRAX（コムトラックス）とは、インターネットによる車両管理システムです。

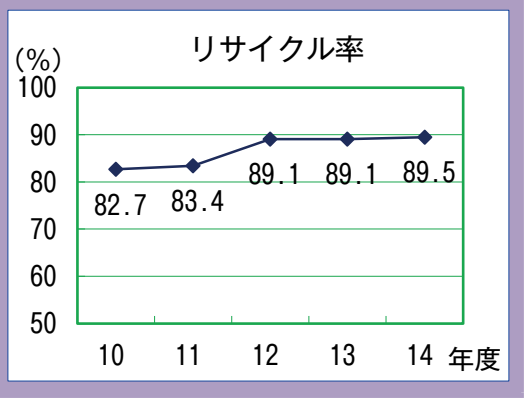


8．産業廃棄物排出量削減

8.1　環境目的及び目標

○環境目的
　３Ｒを推進し、産業廃棄物排出量を2015年度までに2012年度比で10%削減し90%にする
　［全社排出量を2015年度までに66トンにする（売上原単位0.4）］
○2014年度環境目標
　産業廃棄物排出量を2012年度比で3.5%削減する
　［全社排出量を71トンにする（売上原単位0.4）］





※産業廃棄物とは、環境目的及び目標を達成するために当社が定めた用語で、焼却・埋立処分される廃棄物をいいます。

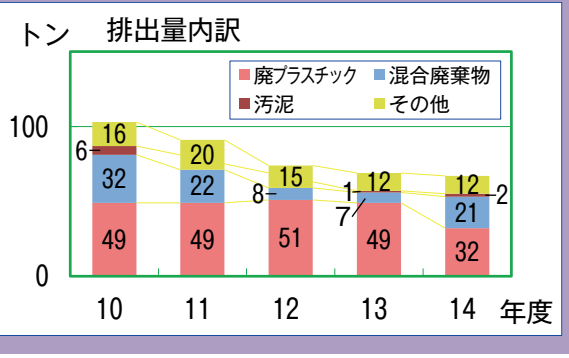
8.2　取り組み結果

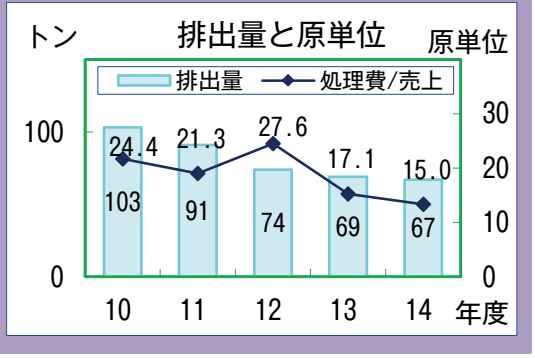
⑴　**目標達成のための方策**

各エリア・部門は、事業所の実態に合った方策で　※1 ３Ｒを推進しました。
①分別：・混合廃棄物を削減するため一般廃棄物と産業廃棄物を適正に分別する。
　　・廃油や金属くずなど有価物を分別しリサイクルを推進する。
②委託：・リサイクル業者への委託ルートを本社、支店単位で開拓する。

⑵　**取り組み実績と今後の課題**

2014年度の産業廃棄物の排出量は、67トンとなり削減目標を達成しました。また、リサイクル率も前年とほぼ同率でした。
2015年度以降も、産業廃棄物の削減とリサイクルを推進していきます。





※1　３Ｒ（スリーアール）とは、環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードです。
Reduce（リデュース）発生抑制　Reuse（リユース）再使用　Recycle（リサイクル）再資源化

９．環境会計

●環境保全コスト

環境保全コスト区分		環境保全コスト区分	2012年度		2013年度		2014年度	
大区分		中区分	費用（千円）	%	費用（千円）	%	費用（千円）	%
事業所内コスト	公害防止コスト	大気汚染防止	5		3,504		25,005	
		水質汚濁防止	7,047		3,568		6,518	
		土壌・地下水汚染防止	0		0		0	
		騒音、振動防止	194		194		194	
		地盤沈下防止	0		0		0	
		その他公害防止	2,224		1,652		653	
		小　計	9,470	4.5	8,918	2.9	32,370	10.3
	地球環境保全コスト	温暖化防止・省エネルギー	62,911		6,618		9,423	
		オゾン層破壊防止、その他	0		0		0	
		小　計	62,911	29.9	6,618	2.2	9,423	3.0
	資源循環コスト	産業廃棄物削減、リサイクル	4,730		2,611		2,576	
		節水、雨水利用等コスト	0		0		0	
		廃棄物処理費	9,417		10,568		9,796	
		小　計	14,147	6.7	13,179	4.3	12,372	3.9
	事業所内コスト計		86,528	41.1	28,715	9.4	54,165	17.3
上・下流コスト		グリーン購入のためのコスト	0		0		0	
		環境配慮設計コスト	879		2,400		2,246	
		小　計	879	0.4	2,400	0.8	2,246	0.7
管理活動コスト		環境教育費用	7,871		7,062		7,719	
		EMS 運用コスト	26,660		25,975		24,453	
		環境負荷の監視・測定	814		779		779	
		環境関連部門コスト	0		0		0	
		小　計	35,345	16.8	33,816	11.1	32,951	10.5
研究活動コスト		研究活動コスト	87,889	41.7	240,018	78.7	224,570	71.5
社会活動コスト		周辺美化対策コスト	0		0		0	
		地域支援・環境関連基金・寄附等	0		0		0	
		情報公開・環境広告コスト	0		0		0	
		小　計	0	0.0	0	0.0	0	0.0
環境損傷コスト		土壌汚染、自然破壊等の修復コスト	0		0		0	
		環境の損傷に対応する引当金	0		0		0	
		環境保全に関わる和解金、補償金	0		0		0	
		小　計	0	0.0	0	0.0	0	0.0
環境保全コスト		合　計	210,641	100	304,949	100	313,932	100

※設備・施設の償却費は含まれません。　　※2012、2013年度の比率を訂正しました。

●環境保全効果

項　目			2012年度	2013年度	2014年度
事業所エリア	産業廃棄物、リサイクル	総排出量（産業廃棄物＋リサイクル）	677 トン	634 トン	636 トン
		産業廃棄物排出量	74 トン	69 トン	67 トン
		基準年比（2002年度）	12 %	11 %	11 %
		リサイクル率	89 %	89 %	89 %
		リサイクル量	603 トン	565 トン	569 トン
	事業活動 CO_2	事業活動 CO_2	3,052 t/CO_2	3,071 t/CO_2	2,897 t/CO_2
		1990年度比	41 %	41 %	39 %
	省エネルギー省資源	用紙購入量	1,815 千枚	1,970 千枚	1,873 千枚
		基準年比（2000年度）	87 %	94 %	89 %
		電力使用量	3,682 千 kWh	3,910 千 kWh	3,849 千 kWh
		基準年比（2000年度）	77 %	82 %	81 %

※1990年の事業活動 CO_2 排出量は推定値7,478 t ／CO_2
※基準年比で、2002年度比は環境目的及び目標に設定した活動、2000年度比は維持活動です。

●環境負荷原単位指標

項　目	2012年度	2013年度	2014年度
事業活動 CO_2 排出量÷売上高（t -CO_2／億円）	12.06	9.42	8.57
産業廃棄物排出量÷売上高（トン／億円）	0.29	0.21	0.20
産業廃棄物処理費÷売上高（億円／億円）	0.01 %	0.01 %	0.01 %

環境への貢献

当社は、地球人としての自覚をもち、自ら積極的に本来業務を通じた環境保全活動を推進できるよう社員の育成に取り組み、地球環境に貢献してまいります。

10. 環境啓発を通じた貢献

10.1 オリジナル活動の表彰

各エリア・部門が推進する本来業務に直結した環境負荷削減活動（オリジナル活動）の効果・成果に対する表彰を行い、2014年度は下記事業所が受賞しました。

受賞部門	環境目標	内容・課題等
（優秀賞） 建機本部名古屋支店上野営業所	油圧ホース交換販売を向上する	ホース損傷による環境汚染を予防するためユーザーへ事前告知 ①油圧ホース点検を実施し良否を事前に知らせた ②在庫確保しユーザーの経費負担削減を図った
（優秀賞） 産機本部東工場機鉄製造課・LC建機G	環境清掃活動を通じ地域社会へ貢献する	５年ほど前から東工場全員で始めた周辺の環境清掃活動は〝ごみを拾えば捨てない人になる〟という意識のもと、毎週１回実施し、地域社会へ貢献した
（優良賞） 建機本部甲信支店韮崎店	環境商品のレンタル売上高を向上する	①活動計画による実施 ②前年実績のあるユーザへのフォロー活動 ③新規ユーザへの提案活動の強化
（優良賞） 産機本部西工場産機製造課	標準作業工数を削減する	①工程設計書を作成する事により作業工数削減を推進した ②改善を行う事により作業工数を削減する・部品の納期通りの供給を進めLCの工数が低減できた
（努力賞） 産機本部産機事業部産機設計課	新たな排出ガス規制適合機械の開発	① MC295CGW モデルチェンジ：日本陸用内燃機関協会、3次排出ガス自主規制適合エンジン搭載機の開発、発売

11. 環境情報の提供

11.1 加入団体

当社は、行政、環境関連団体に加入し、参加団体とのコミュニケーションを図ると共に地域、業界の環境保全活動推進に参加・貢献しています。

加入団体（＊敬称略　順不同）

●一般社団法人長野県環境保全協会
●長野市「ながのエコ・サークル」

11.2 活動のあゆみ

当社が歩んできた主な活動です。環境保全活動から、CSR 戦略の充実により、全てのステークホルダーから信頼され地球環境へ貢献できる企業づくりを推進いたします。

（2011年以前は『CSR 報告書2013』をご覧ください）

年　度	活　　動
2012年度	●全社 ISO14001：2004更新審査 ●全社環境目的を達成

12. 環境教育訓練

12.1　階層別環境教育

全従業員・構成員（場内協力業者含む）がそれぞれの役割・責任を認識し、日々の業務の中で環境活動を推進するため、階層別の教育を実施しています。

●新入社員教育　　・入社時に実施（環境関連基本教育）
●環境推進委員教育　・毎年４月実施（事務局による環境方針、活動計画等解説）
●一般社員教育　　・毎年４月実施（所属長による環境方針、活動計画解説）

12.2　内部環境監査員教育

内部環境監査員の養成や監査レベルの向上を図るため、教育を実施しています。

●内部環境監査員リフレッシュ教育　　・内部環境監査員の能力維持、レベルアップ
●内部環境監査員養成教育　　・新たな内部環境監査員として認定

12.3　環境に関する専門教育

各エリア・部門が必要な教育を特定し、計画を策定して教育を実施しています。

●特定業務要員教育　　・特定業務（レンタル機の出庫点検、メッキ液廃水処理等）の手順書に基づく職場教育、講習会への参加等
●専門教育　　・危険物取扱者、環境公害（水質汚濁等）防止の測定業務者への教育

12.4　事故・緊急事態対応訓練

事故発生・緊急事態発生時の対応について、各事業所毎に模擬訓練（１回／年）を教育計画に織込み、関係者の実践教育および手順の有効性のテストを実施しています。

2014年度は、本社工場で消防総合訓練を兼ねて、西サイト・東サイトで実施しました。

西サイト：ビル３階から火災が発生した想定

東サイト：東工場で火災が発生し液化ガス貯蔵設備の緊急事態を想定

本社工場・消防総合訓練

［西サイト］

要救助者をはしご車で救助

指導員による AED 取扱

［東サイト］

設備管理者による応急措置

統括者の指示による放水

13. 地球人の一員として地球環境へ貢献

13.1　マエダ版エコポイント（Me － Pon）制度

前田版エコポイント制度とは、前田建設工業グループの活動方針の主旨である、

①地球をステークホルダーと考え、地球人の一員として自覚すること

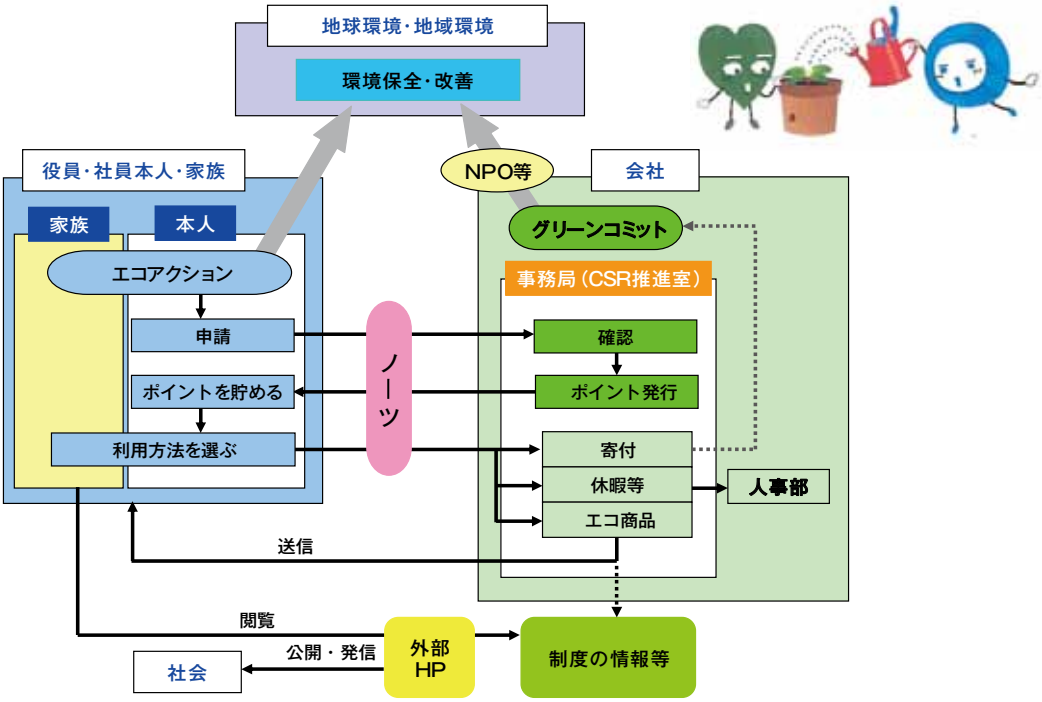
②全員で誇りをもって愚直に取り組むこと

③家族の皆さまと一緒に活動を進めていくこと

を、「業務外」でグループ構成員全員でコツコツと取り組み、活性化し、その結果を社会の皆さまに向けて発信し、コミュニケーションをしていく制度です。

【Me － Pon の概略フロー】

全社員・家族を含めた全生活領域で環境活動を推進する独自の制度です。



この制度は、行った活動に対して個人にポイントを与え、集めたポイントによって商品と交換できるシステムとなっており、2012年１月より運用を開始しました。

2014年度は、インターネットによる Web オンデマンドにシステムを変更し、累計で513名が登録しました。

13.2　『前田の森　佐久』間伐作業ボランティア

「MAEDA グリーンコミット」とは、植樹や森林整備などの環境保全事業で、寄付およびボランティア活動を通じて、地球環境へ貢献しています。

『前田の森　佐久』は、「MAEDA グリーンコミット」の中の１つの活動で前田建設工業の関東支店が取り組んでいます。『前田の森　佐久』は、長野県主催の「森の里親事業」で前田建設工業がその主旨に共感し、主体となって行っています。当社は、2014年も11月の間伐作業に参加しました。

株式会社前田製作所　CSR 報告書2015　アンケート

株式会社前田製作所　CSR 推進室　行

FAX：026-293-6419

※該当する項目に［○］をご記入ください。

Q１．この報告書について、どのようにお感じになられましたか？

○情報量

１．大変充実している　２．充実している　３．普通　４．やや物足りない　５．物足りない

○取り組みの内容

１．大変評価できる　２．評価できる　３．普通　４．あまり評価できない　５．評価できない

Q２．この報告書の記載事項で、特に興味を持たれたのはどの記事ですか？

（いくつでも結構です）

１．コーポレートメッセージ　（Ｐ２）

２．トップメッセージ　（Ｐ４）

３．地域社会への貢献　（Ｐ６）

４．自社ブランドでの貢献　（Ｐ８）

５．コマツブランドでの貢献　（Ｐ15）

６．従業員への貢献　（Ｐ18）

７．グループ会社の社会貢献　（Ｐ22）

８．CSR・コンプライアンス　（Ｐ26）

９．環境への貢献　（Ｐ28）

Q３．当社の CSR や環境への取り組み・方針について、ご理解いただけましたか？

１．十分に理解し、期待している　　２．理解できた　　３．普通

４．あまり理解できない　　５．期待もせず、理解もできない

Q４．今後の当社 CSR 活動へ期待すること

ご意見・ご希望などがありましたらお聞かせください。

✂ キリトリ線 ✂

株式会社前田製作所

表紙の写真について

徳川家康は江戸を中心とした５街道を定め、その中の１つに甲州街道を設けた。当初、甲州街道は、甲府までであったが、慶長15年頃下諏訪（中山道）まで延長整備された。

街道には、往来する人々のために宿場や目安となる一里塚が設けられた。この一里塚は、土で盛られ大きさが５間（約９ｍ）四方といわれ、そこにケヤキなどの木が植えられた。

神戸のケヤキは、推定樹齢380年、樹高25m、目通り高幹囲6.9ｍの巨木で、永い歳月と風雪に耐えた堂々たる風格を備えている。

CSR 推進室
〒388-8522
長野県長野市篠ノ井御幣川1095
TEL　026-292-2229
HP　http://www.maesei.co.jp

2015年８月

VEGETABLE OIL INK　この印刷物は、環境に配慮した植物性インキを使用しています。
FSC www.fsc.org　ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C008865